

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671900342		
法人名	NPO法人咲風会		
事業所名	グループホーム空		
所在地	徳島県三好市池田町白地ウマバ456		
自己評価作成日	平成30年1月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成30年3月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

定員が少ないので、職員と利用者の関係は家族のようです。自然に恵まれた環境は、心理的に好影響を及ぼすと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、茶畑や田畑が広がる自然豊かな里山集落に位置している。眼下には吉野川水系が眺められるなど展望がよく、四季の移り変わりを日々の生活の中で感じることができる。職員は、家庭的な雰囲気を保ちつつも、利用者一人ひとりに敬意と感謝の気持ちを持ち、その人らしい生活が送れるよう支援している。管理者と職員は、日頃からコミュニケーションを図り、何でも話せる人間関係と風通しの良い、働きやすく働きがいのある職場環境づくりに努めている。利用者一人ひとりの健康管理や医療支援に繋がられるように、協力医療機関と連携し支援を行うなどして、利用者や家族の安心につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	専門性以上に自己研鑽を積みたい。	事業所では、地域密着型サービスとしての意義や福祉の役割を踏まえた理念を掲げている。全職員は、理念の“地域に密着した施設づくり・個性を尊重し、豊かで輝くような暮らしを支援する”を支援の原点として捉えており、利用者一人ひとりと向き合う時間を大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	一定の距離を保ちつつ、地域に溶け込むよう心掛けている。	管理者は、地域住民とともに木の伐採作業などに参加するなどして、地域の一員として活動しているが十分とはいえない。	近隣には民家が少なく、住民の往来も多いとはいえない立地条件にあるが、事業所は地域の社会資源であり、福祉拠点であることから、コミュニティの再構築に貢献できるよう検討されたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	機会があれば発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第3者の意見、反対意見に耳を傾けるようにしている。	事業所では、運営推進会議に民生委員・児童委員や地域包括支援センター職員等の出席を得て開催できるように努めているが、定期的開催するまでには至っていない。会議では事業所の現状報告を行うなどしている。出席者から地域の情報を得るなどしており、出された情報等は職員間で共有するようにしている。	今後は、地域住民や関係機関等の協力を得るなどして、出席者の構成を検討しつつ、定期的な運営推進会議の開催ができるよう期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	意思疎通を図っている。	管理者は、市担当者と直接話すことのできる機会をもつよう心がけている。利用状況を報告するなどしている。また、季節毎の感染症に対する情報等を得ており、双方向の協力関係が整っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行政の指導が厳しい。	事業所では、身体拘束に関するマニュアルなどを整備している。管理者と職員は、身体拘束の弊害や内容について理解しているが、定期的な内・外部研修の機会を設けるまでには至っていない。	全職員が身体拘束の弊害や内容についてより理解し、身体拘束をしないケアの実践に取り組むためにも、勉強会や研修の機会を設けられるよう努められたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員肝に銘じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	その様な機会に直面すれば学ぶことになる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	簡潔明瞭な契約書を作成し、相手に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	組織より、住民第一と心得る。	毎月、事業所では、家族に写真を添付するなどして生活の様子を伝えるようにしている。職員は、家族に積極的に電話で連絡をし、利用者の様子を伝えるなどして、意向や希望を聞くようにしている。しかし、家族や知人、友人の来訪を促すなどして、意向を表出しやすい企画や場づくりは十分とはいえない。	事業所の立地条件や家族の高齢化等により、来訪の回数が少なくなる傾向が見受けられるが、ケアパートナーでもある家族とともに、利用者一人ひとりの暮らしを支えられるような取り組みに期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日が勉強の場である。	日頃から管理者は、職員と気軽にコミュニケーションを図ることができるよう心がけている。全職員との信頼関係を築いている。出された意見や要望を運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は他の施設との比較に肥えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	どこに移っても独り立ちできる専門性を持たせたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	人手不足状態が続いており、これからは法人間の職員交換等による方法も視野に入れている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	誠意＝信頼			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	15に同じ			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自事業所の利益より、本人の利益を優先。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	つまり家族という事ですね。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	18に同じ			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	17に同じ	事業所では玄関を開放し、利用者の自由な暮らしの支援に努めている。外出が困難な場合には、居室に家族の写真や手紙等を掲示するなどの工夫も見受けられる。しかし、馴染みの人や場との関係継続に向けた支援を積極的に行っているとはいえない。	利用者の高齢化に伴いADLの低下が懸念されることから、自立を支援するための日々の活動性を高める取り組みに期待する。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	17に同じ			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	昨今、施設がたくさん出来、空き室が増え、選べるようになったのは家族にとって幸いである。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	17に同じ	職員は、利用者との関わりの時間を多く設けるよう努めている。日頃の利用者とのコミュニケーションのなかで、利用者一人ひとりが思いや意向を表出しやすいよう配慮しつつ、暮らし方の希望や思いを聞くようにしている。家族や関係者等から生活歴を聞いたりとその人らしい暮らしの実現に向けた支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	17に同じ			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日が勉強の場である			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護度が変わればケアプランを作り直すことになっている。	事業所では、利用者の意向の把握に努めている。日頃から職員は、利用者との関わりのなかで把握した気づき等を職員間で話し合い、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	17に同じ			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	17に同じ			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	たくさん施設ができ、好きな所を選べるようになった。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	17に同じ	協力医療機関との連携を行い、利用者一人ひとりの健康管理や医療支援に繋がれるように支援している。往診の機会も設けている。専門科の受診時は、職員が送迎や同行などの支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	私は現在の医者を信頼しているので変えたくない。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	17に同じ			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	地域の関係者とは誰ですか。	事業所では、重度化した場合や終末期に向けた対応に係る指針を作成している。入居時の段階で、本人や家族と話し合うなどしている。利用者の心身状況の変化に応じて、本人や家族、主治医、関係者間で話し合い、対応方針の再確認を行って終末期の支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは大切であるが、同時にマニュアルに頼ることは危険であることも知っておくべき。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	34に同じ	毎月、事業所では、利用者と職員で自主的に避難訓練を行っているが、火災以外の災害想定訓練を行うまでには至っていない。	今後は、消防署や消防団等の協力を得るなどして、事業所のリスクを可視化したり、地域住民との協力体制を整えたりして、利用者と職員で実践的な訓練等が行えるよう検討されたい。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉が全て	管理者と職員は、日頃の利用者との関わりを通して、一人ひとりへの何気ない言葉がけのなかにも利用者の尊厳を傷つけることのないよう配慮している。職員間で、利用者の尊厳やプライバシーについて話し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来ない人に手を差し伸べるのが役割。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ソフト面やハード面からアプローチを試みている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	四季折々に普段着を変え、髪型に気を付けている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	衛生上可能な限り。	事業所では、利用者一人ひとりの食事の好みや希望を聞くなどしている。献立は、利用者の嗜好や季節感を大切にしている。1日2回、おやつ時間を設けるなどしており、利用者の楽しみとなっている。利用者と職員は、庭園で果物を収穫し、食べることもある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調の変化に敏感でありたい。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	はい			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	退院後ポータブルを置かなかつたことで、トイレに行く途中に転倒骨折したケースがある。	職員は、利用者の生活歴や排泄パターンの把握に努め、一人ひとりの排泄等のタイミングや状況に応じてトイレでの排泄を支援している。夜間も、できるだけトイレで排泄することができるよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	はい			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	はい	週2回、事業所では、利用者全員が入浴することができるようにしている。毎日、本人が入浴を希望する場合は個別に入浴支援を行っている。職員は、利用者が温まると安眠できることから、シャワー浴を採り入れるなどしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	はい			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の方が薬が変わると気にしてくれる。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	創意工夫している			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なかなか出来ない。	利用者と職員は、季候の良い日には庭に設置されたベンチで日光浴を楽しんだり、庭園で収穫した果物を食べたりして、戸外で過ごすことができるようにしている。しかし、利用者の高齢化により、外出の機会が多いとはいえない。	今後は、利用者一人ひとりの希望を把握するなどして、日常的な外出支援が行えるよう、職員間で話し合うなどして検討されたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	被害妄想の危険あり。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	はい		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	はい	共有空間は、掃除が行きとどき清潔に保たれている。壁面には、利用者と職員で作成した作品等が飾られている。日当たりのよい庭では、花を育てたり、メダカを飼ったりして自然を感じることが出来る環境が整っており、季節を感じながら、くつろげる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	19に同じ		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	19に同じ	事業所では、利用者の使い慣れた家具や好みの物を持ち込んでもらっている。居室には、家族の写真を飾るなどして、その人らしく過ごせる場となっている。利用者と職員で相談するなどして、ベッドや机、椅子などが使いやすく配置できるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	19に同じ		